

関東大震災96年 中国人受難者慰霊式 (2019年9月8日)



9月8日、東大島文化センターにおいて、関東大震災96年、「中国人受難者慰霊式」が開催された。この場こそ、96年前に中国人出稼ぎ労働者たちが集団虐殺された現場（写真下：前の路上で追悼）そのものだ。長年この現場での追悼式を追求してきたが、それがようやく実現した。祭壇中央に関谷興仁さん制作の「悼」の陶板と、被害者の名前が掲げられ、参加者全員は、まず被害者に黙祷を捧げた後、厳粛な気持ちで追悼式を進めた。



王希天の遺族からは、吉林省から来日した遺族を代表して、王旗さんが、そして浙江省温州の遺族を代表して周江法さんが、それぞれ挨拶に立った。また行商をしていて被害にあった福建省福清の遺族も紹介された。

来賓挨拶は、中華人民共和国駐日本国大使館張亞強参事官（写真）が、「日本の有識者の方々が、日本政府、両国国民の根本的な利益から出発して、歴史を鑑として未来に目を向けるという精神に基づき歴史問題について責任ある態度と行動をとり、中国と共に歩み、両国関係の不断の発展を推し進めることを期待」と述べられた。続いて、社会民主党副党首福島瑞穂、江東区議中村まさ子の各氏が挨拶。



その後、毎年この関東大震災追悼式のためにわざわざスケジュールを空けて参加してくれる在日コリアン二世の歌手李政美さん（竹田裕美子さんのピアノ）が追悼の歌を捧げ、参加者全員が献花して追悼式を終えた。



午後からは、同じ場所で祭壇を改めて、「関東大震災中国人虐殺を考える集い」を行った。

遺族挨拶は温州蘇秀栄さん、吉林省張令威さん、温州周松権さん、吉林省王思迪さんが、それぞれ発言した。

その後、「関東大震災における朝鮮人・中国人虐殺」と題する慎蒼

宇さんの講演、小笠原強さんが「1923年の被害者名簿について」を報告した。続いて、西中誠一郎さん撮影の福清の影像上映の後、「福清“おねえさん”のお墓」について林伯耀さんが訴えた。

また、会場には、魯迅木刻研究会木間による《1923東瀛惨案図》が掲げられた。

前日の9月7日には、現地参観のあと韓国



・朝鮮人犠牲者追悼式に参加。9月9日には、山崎江東区長への要請文を提出。午後には八広の「ほうせんかの家」で慎民子さんからお話を伺った。